

教育とAIの関わり方

相洋中学校 三年 矢野 実千瑠

みなさんは、日常生活の中で、どのくらいチャットGPTやGroKなどのAIを使用していますか。難しい計算や文章作りといった、本来自分でやらなければならない作業を「一瞬で終わらせてくれて便利だから。」などの理由でAIに任せたことがある人も多いのではないのでしょうか。そのような、学習面においてのAIの使用がもたらす悪影響や私を感じている危機感についてお話しします。

AIが普及した現代では、生徒が宿題や提出物などの自分で考えるべきことをAIに頼ってしまう事例が増加しています。今までなら自分で考え抜こうとしていたことを、AIに任せっきりにしてしまっているのです。例えば、九州にある私立高校で教師が出した英作文の宿題を、高校一年生の生徒が本人の学力よりも高いレベルの回答を提出した出来事がありました。不審に思った教師が生徒にその場で同じ英作文を書くよう求めたところ、チャットGPTの回答を丸写ししていたことが発覚したという事例もありました。この教師は、「見抜けないものもあるが、繰り返しダメだというほかない」と心配の声を上げました。

そもそも宿題とは、学習習慣を身につけることや授業内容の復習を目的として出されているものであって、ただ単に終わらせればその過程はなんでも良いわけではありません。

AIに宿題をやらせるということは、生徒自身は宿題をやっていないのと同じだと私は思います。このようにAIに頼るようになってしまうと、自分で最後まで考え抜く力が失われ、学力が低下してしまうおそれがあります。

私自身チャットGPTに何気なく作文の相談をしたことがあります。AIはとても詳しく上手く言語化された回答を返してくれました。ですが、よく考えてみると、私はこのとき自分で考えることをやめてしまっていることに気がつきました。自分で考えることを放棄して、AIの考えを自分の考えとして当たり前のように使おうとしていたことに、私は恐怖を感じました。AIを使うと、AIの発想に自分の発想・想像力を伸ばす機会が奪われてしまう可能性があります。

しかし、一番恐ろしい状態は、自分で考えることを放棄してAIの考えを自分の考えとして使うことに恐怖すら感じない状態だと私は思います。この状態になってしまうと、面倒臭い作業は迷わず全てAIに丸投げする、つまり、AIに完全に依存しきってしまうことになるのです。

また、発想・想像力が低下することによって、自然災害などの緊急事態に柔軟な対応ができなくなってしまうことにも繋がりがかねないので。このように、AIを使用する際には、それが自分にどのような影響をもたらすのかよく考える必要があります。

一方で、回答を見ても解き方のわからない問題の解説や、英作文の添削などAIを使用したほうが効率よく作業できるものには、AIをおおいに活用するべきだと考えます。AIは、医療やIT系のプログラムを作成する場面ではとても便利で優秀なツールです。

学習面においても、写真を生成することやデータを集めるときにAIを使用する分には、ウェブサイトで記事をかき分けて探すよりも早いですし、とても良い使い方であると言えるでしょう。ですが、英作文や読書感想文などの自分の発想・想像力を大切にしなければならぬ場面では、AIを使用してしまふとそういった力を育てることができなくなってしまう。

AIの使用を制限することはできないけれども、自分自身が学習しているのではなく、AIに学習させてしまっているのだということを常に意識する必要があります。その選択が私にとって本当に必要なのか、正しいことなのかをしっかりと考え、適切な距離感で関わっていくことが、教育とAIについての私たちが向き合っていくべき課題なのではないでしょうか。